



アンコールクライマーズネット (ACN) ニュースレター

by Angkor Climbers net

ACNはアウトドア総合ブランド(株)モンペレより賛同・支援をいただいています

<http://www.angkorclimbers.net/>

2009/10/30 創刊号



■ アンコールクライマーズネット (ACN) はカンボジアで活動するNGOです。2008年2月にアンコールワットで有名なシムリアブに設立されました。カンボジアで、カンボジア人による正しいスポーツクライミングの実現をお手伝いしています。設立趣旨などについて詳細は、3ページをご覧ください。

■ ACNに、2009年2月、クライミングウォール(人工壁)の建設計画が提案されました。私たちは約4ヶ月間に渡って、実現の可能性を探り、その実現に向けた活動を先の8月1日に開始しま



身体能力抜群のソチェット（14才）
のクライミング

した。このプロジェクトを「アンコールウォールプロジェクト（AWP）」と呼びます。実現のための資金は任意の個人、団体からの寄付に依存します。AWPの理念、基本計画など詳細については4ページをご覧ください。

■AWPは現在、2010年1月中旬着工に向けて、一步一步準備中です。現在、AWPの初動資金が不足しています。皆様の暖かいご支援、ご協力をお願いします。

■AWPは、私たちACNの理念を実現するための手だての一つです。同様にACNでは、孤児院の子供たちを中心にしたクライミング教室やカンボジア各地に点在する岩場

でのエリアの開拓、正しいクライミングを広めるためのインストラクター養成プログラムなど、様々な活動を行っています。詳細は、9ページをご覧ください。

★★★ 寄付金口座 ★★★

ゆうちょ銀行

記号 10010

番号 75286831

口座名 アンコールクライマーズネット

※他銀行よりの送金の場合；

店名 ○〇八（ゼロゼロハチ）

店番 008

預金種目 普通預金

口座番号 7528683

口座名 アンコールクライマーズネット

Webサイトでもご確認出来ます

http://www.angkorclimbers.net/awp_donate.html

☆☆☆ アンコールクライマーズネット連絡先 ☆☆☆

■アンコールクライマーズネット（日本）

伊藤忠男気付

〒182-0025 東京都調布市多摩川 5-3-1-506

tel. & fax +81-(0)42-498-2488

■アンコールクライマーズネット（カンボジア）

Angkor Climbers Net (ACN)

tel. +855-(0)12-933460, +855-(0)77-508653, +855-(0)12-1759970

POBOX 93044

c/o Moloppor Cafe I

Wat Bou village, Salakomrauk commune

Siem Reap district, Siem Reap province

Kingdom of Cambodia

■email letsclimb@angkorclimbers.net



アンコールワットマラソンスタート1時間前



シソポン/スペースシャトルタワーの開拓



子供たちのためのクライミング教室

アンコールクライマーズネット (ACN) について

●今、カンボジアは

カンボジアは四半世紀に及ぶ内戦と、クメール・ルージュによる虐殺で大勢の国民を失った。それまでの歴史と、そして、ことに内戦中の軍や政府に蔓延した汚職などの腐敗構造の影響が、今もなおカンボジア社会の健全な発展を妨げている。しかし経済に関しては、1997年以降の東南アジアの通貨危機を経つつも、中国・インド・東南アジアでの近年の急激な成長が、弱小国であるカンボジアにもなごしかの資本と繊維産業等の流入を促した。さらに世界遺産アンコールワットが呼び込んだ観光客の増加が劇的な好景気を生み、この数年、カンボジアでは地価が高騰し、建設ラッシュが起きている。こうした経済の発展に伴い、都市住民の所得は増加し、ことに土地の転売に関わることの出来る富裕層は短期で蓄財出来て、先進国水準の消費生活が可能になって来た。だが一方で、主要産業を担う農村では家族の重篤な病気や不作による借金返済不能等の理由で土地を失い、離農に追い込まれる人々も増えている。また都市にも農村部にも薬物依存の若者が出現して来た。このような顕著に不均衡な状況から、



ポルポト時代の忌まわしい記憶が刻まれたトゥールスレン刑務所の拷問部屋にて (プノンペン)

ズルく立ち回ることが良いと考える人が増えている。他人や、ときには血縁を騙してでも金を儲けたり、弱者や低賃金で真面目に働くものを軽視したりする傾向が目立つ。若者たちも、もっと楽で儲かる、うまい話があるのではないかと考えから、一つの職場に定着しようとしにくい。さらに学校の授業でも、体育や音楽など、人を豊かに育むべき分野が軽視される傾向にある。これらが金儲けに繋がらないからだが、しかしこうしたことによって子供たちは心にゆとりをなくし、豊かで文化的な暮らしから遠ざけられつつある。フェアではない生き方が人々の心に忍び寄ってきたのだ。

●ACNについて

アンコールクライマーズネット (ACN) は、2008年2月1日、カンボジア/シェムリアップにて2年間、NGOるしなのIT顧問を勤めていた日本人、伊藤忠男を中心に設立された。伊藤は、2006年5月より勤務地シェムリアップをベースにカンボジア各地に足を運び、日本人、欧米人、カンボジア人とともにクライミングエリアの開拓を続けている。カンボジア人がクライミングを愉しむ機会も徐々に増え、カンボジアでカンボジア人による正しいクライミングの実現を手伝おうと思いついた。ACNは、2009/8/1現在、5名の理事 (日本人4名、カンボジア人1名)、監査1名、顧問4名、若干名のボランティアによって運営されている。本部は日本に移されているが、カンボジア・シェムリアップでは、「NGOるしな」(松本清嗣代表)が、現地の拠点となっている。運営資金は、現時点ではもっぱら有志からの寄贈、各自の持ち出し、及び若干のカンパで賄っている。

●なぜ、クライミングか？

先進国は、衣食住や医療など直接生存に関わるものを中心に開発途上国の援助を進めている。しかし、それだけでひとが生きていける訳ではない。成熟した社会に於いて私たちは遊びや楽しみが、ひとを豊かに育むことを様々な経験から学んでいる。一方でカンボジアのような開発途上国の子供は早く大人になる。ならざるを得ない。家計を支えるために10歳で働き始める子だっているのが現実だ。彼らは大人になっても続けられる遊びや、自分で考え、自分で問題を解決することの喜びを知る前に大人になってしまうのだ。アンコールクライマーズネット (ACN) はスポーツクライミング (以下、単にクライミングと称す) を通じて、次のような提案をしたい。

- ・競争ではなく調和を
- ・自分で考えることを
- ・他人に勝つ優越感より、自分の限界を超えてゆく楽しさをクライミングを通して共に体験したい

私たちはこれまでの経験からクライミングが、フェアで機知に富み、広い視野を持った思いやり深い人材を育てることを知っている。クライマーは自然やそこに住む人々との調和を常に感じ、考えて行動する。クライミングは好ましいライフスタイル (生き方) の一つであり、それを知り、学び、身に付けることが、やがて彼らの真に生きる力になると確信している。ACNは、クライミングが生まれた歴史とその精神、技術をカンボジアの人々に正確に伝えるため、次のような目的、使命をもって設立された。

- ・性別、年齢、階層、人種、宗教などを問わず、希望するすべてのカンボジア人に正しいクライミングを紹介すること。
- ・クライミングを始めたカンボジア人クライマーを正しく育成すること。
- ・国籍、性別、年齢、階層、人種、宗教等を問わず、カンボジアでクライミングする人々の交流を深め、カンボジアでのクライミングが教育・文化の一分野として健全に発展することに寄与すること。

ACN代表理事・伊藤忠男のプロフィール

1948年東京生まれ。(有)エス・ピー・シー設計事務所代表取締役。上流工程SEが専門。70年代末、カトマンズ/ヒマラヤンホテルの第一次設計、現場設計監理(設備)を手掛けた。フリークライミング黎明期以前より現在でもクライマーであり続ける。登山と海外協力はヒマラヤ、クライミングはヨセミテで目覚めた。



カンボジアでクライミングウォールを作る

●クライミングウォール計画の発端

ACNの技術顧問である菊地敏之と森山議雄らが、2009年2月、ACN代表・伊藤に、ドナーを募って、カンボジアにクライミングウォールの建設を提案した。提案を受けた伊藤は自身の活動拠点でもあり、外国人観光客の最も多いアンコールワット観光でにぎわうシェムリアブに、当該ウォールの建設を想定し、菊地、森山らと企画チームを発足、本案の可能性を4ヶ月に渡って調査、検討の後、本年8/1実現に向けての行動開始を決定した。プロジェクトの仮称を『アンコール・ウォール・プロジェクト (AWP)』とした。

●なぜ、クライミング・ウォールか？

カンボジアでは下記のような特有の環境が岩場でのクライミングの脅威になっており、岩資源は無限とも言えるほどあるにも拘わらず、その発展が隣国のタイ、ベトナムに比べて極端に遅れてしまった。



雨季には水で囲まれてしまうプノンチエリアの岩場

1. 地雷、不発弾が埋まったままの土地が多い。
2. 自然環境（日射、動植物）が苛烈である。
3. 土地所有権の基礎となる区画が未整理で、所有権を主張する者とのトラブルが起こる可能性が常にある。
4. 道路が未発達、もしくは未整備で岩場への移動が困難である。
5. 一年の凡そ半分が雨季である。雨季には周囲が水で囲まれてしまう岩場もある。

タイではすでにインドアでのコンペも盛んに行われている。また、ベトナムでも、ホーチ・ミン・シティにクライミング施設が一昨年完成している。このような状況から、カンボジアにもクライミングウォールが切望されるようになって来ている。

●もし、シェムリアブにクライミングウォールが出来たら

1. カンボジア特有な様々な脅威とそれに絡むトラブルを回避でき、カンボジアの人々に安全にクライミングを広めることが出来る。

2. ウォールの設計と講習の仕方次第で、子供たち、それに地雷などによる身体機能に障害のあるひとたち、視力障害のあるひとたちにもクライミングを広めることが出来る。

※クライミングは障害者にもっとも向いたスポーツのひとつと言われている。

※視覚障害者のワールドカップも、リード形式で行われている。

3. 海外からの熟練したクライマーが利用できるようになれば、その登りを目の当たりにすることで、カンボジアの人々にクライミングの持つスポーツとしての素晴らしさを、より多く、深く知らせることが出来る。



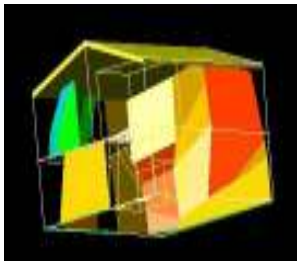
地雷で片腕をなくしたワナック。笑っているがじつは数秒でふだんの暗い表情に戻る

●クライミングウォールの理念

・カンボジア人による、カンボジア人のためのクライミングウォールを目指す。ウォール建設の設計施工、及びその運営等をカンボジア人自身が自立的に行うための理念、技術、知識等の移行、及び職業としてのクライミングウォール設計施工者、管理者の育成を計画的に実行する。

- ・カンボジアにおけるスポーツクライミングの発祥、発展に寄与する。
- ・初級者～上級者まで利用できる。
- ・正しい指導者の指導があれば、初心者、小児、障害者、障害児も利用出来る。
- ・非営利

※ただし、外国人ビジターからは施設維持管理費などを徴収する見込み以上の理念に即して、AWP（(仮称) アンコールウォールプロジェクト）は構想された。



ACN理事・スムロンのプロフィール

1977年、カンボジア生まれ。1999年プノンベン体育教員養成校卒。シェムリアブ/プレエンコーサ中学校体育教師。英語堪能。JOCV（日本青年海外協力隊）隊員のカウンターパートも担当。カンボジア人の子供たちにクライミングを教えている。



ACN副代表理事・阿部千依のプロフィール

1980年千葉生まれ。上智大学アジア文化研究所共同研究員（文化人類学）。アンコール遺跡国際調査団員。専門はアンコール遺跡群と共に生きる人々の文化・儀礼調査。同アジア人材養成研究センター（在シェムリアブ）に研究員として常駐し、在住すでに5年を超える。



クライミングウォールの基本計画

1. 目的

- ・アンコールウォールプロジェクト（略称AWP、以後AWPと称す）は、カンボジア／シェムリアップに、クライミングウォールを建設する。
- ・日本のウォール施工技術を、希望する適性のあるカンボジア人技術者に移行する。

2. 前提事項

- ・当該クライミングウォールは完成後、NGOるしな及びNGOハートオブゴールドが共同で建設、運営中の、『新チャイルドケアセンター』（略称NCCC）に付属するスポーツ・体育施設とする。
- ・当該クライミングウォールの運営管理はNGOアンコールクライマーズネット（略称ACN）が行う。
- ・当該クライミングウォールはAWPを所有者とするが、竣工後、適正な個人、または団体へ引渡さすことが出来るものとする。

※NGOるしな（松本清嗣代表）について → <http://lcj.press.ne.jp/index.shtml>

※NGOハートオブゴールド（有森裕子代表）について → <http://www.hofg.org/jp/>

3. AWPの構成

下記の団体による共同プロジェクトである。

- ・NGOアンコールクライマーズネット（ACN）
- ・クライミングジム設計施工会社・（有）アート・モリ
- ・NGOるしな

プロジェクトリーダー及びプロジェクトマネージャーは下記の通りとする。

- ・PL（プロジェクトリーダー）
ACN代表理事・伊藤忠男
- ・PM（プロジェクトマネージャー）
ACN 代表理事・伊藤忠男（PLと兼任）
ACN 副代表理事・阿部千依
ACN 理事・スムロン
ACN 理事・高木智子

4. 体制

※敬称略

企画チーム

（左から）去山謙輔、伊藤忠男（TL）、中江恵美子、菊地敏之



PL・伊藤忠男
（ACN代表理事）



支援調整担当
菊地敏之



PM・ACN

阿部千依（副代表理事）
スムロン（理事）
高木智子（理事）
伊藤忠男（代表理事）
（左から）

ジム棟建設チーム

建築チームTL
NGOるしな代表・松本清嗣



Wall設計施工チーム
TL・去山謙輔

5. 建設地

本敷地は、NGOるしな代表・松本氏の私有地である。通称「M4」と呼ばれる。場所は市街中心よりバイクなら数分、自転車でも15分程度の位置にある。広さは30m*30mあるが、AWPに提供できる部分は中央の15m*30mである。現在は更地。



M4 敷地中央に立ち東側隣地を望む

6. クライミングウォール仕様

以下の2案を候補とする。

<<プランA>>

建設資金が順当に調達できた場合の本命案。鉄骨造建物の構造体を支点にしてウォールを組む。ロープクライミング壁1面、幅12m*高さ9m、傾斜により3つのセクションに分かれる。ボルダリング壁1面、幅12m*高さ4m

<<プランB>>

建設資金が十分に調達出来ない場合、プランA実現までの暫定処理。建物は作らない。ウォールは屋外自立型とする。単管、建柱等の足場で使用する構造体を支点としてウォールを組む。ロープクライミング壁1面、幅6m*高さ8m。
※2009/10 現在、プランBでの実現を目指しています!!



プランAのウォール模型



プランBと同タイプの例

7. 建設期間

2009/12に着工。竣工目標は2010/3である。しかし、工期は投入可能資金の調達達成により柔軟にスライドする。従って、プロジェクト開始時点では竣工予定日が、じつは無い。工程表は、資金調達達成と現工程によって常に更新される。

※施工開始から竣工までの詳細計画は別添付資料（『Angkor Wall Project 基本計画案（B）』）をご覧ください

8. 建設資金及び資源

- ・建設費用はすべて、任意の個人、及び団体からの寄付金で購う。
- ・建設に供する資源（人材、資材、器材等）は、可能な限り任意の個人及び団体からの自由意志による参加・寄贈品等をこれに充てる。
- ・寄付金の収集及び、本プロジェクトの財務会計処理全般は、ACNが行う。会計処理は細目等を別に定め実施するものとする。
- ・プランA実現のための施工費用概算は下記の通り。

※日本人施工技術者工数の考え方

- ・カンボジアの作業環境を勘案して、
- 建設期間 3人月、ルート設定期間 2人月、と見ている

工事費概算見積

NO.	項目名	単価	数	計(¥)	備考
1	日本人技術者渡航、滞在、保険等諸経費	400,000/人	5人	2,000,000	施工時3名、ルート設定及び指導2名
2	日本製資材			1,000,000	ホールド、廻り止め類、その他
3	日本製資材、工具輸出費用			600,000	コンテナ輸送を考慮
4	コンパネ、木材等現地資材			1,000,000	現地調達
5	足場用資材			200,000	現地調達
6	カンボジア人報酬	8,000/月・人	9人月	72,000	研修生等
7	建築工事費（敷地造成とも）			1,500,000	
8	土地購入費用			*2,500,000	※合計に入れない
9	その他、雑費			500,000	※移設費用など
	合計			6,872,000	

ACN理事・高木智子のプロフィール

1969年静岡生まれ。北大・大学院環境科学研究科卒。原始布・古代織参考館（山形県米沢市）に勤務後、現在までカンボジア・プロロンクマエ 陶芸織物トレーニングセンターにて染織と製品開発のアドバイザーとして勤務。



ACN理事・米倉優介のプロフィール

1984年鹿児島生まれ。JOCV（日本青年海外協力隊）隊員として2006年から2年間シエムリアップ/プレエンコーサ中学校にて体育教員指導を担当。九州学生柔道選手権入賞の経歴を持つ。



クライミングウォール施工準備、2009年10月現在

ACNでは、AWPの施工準備を2009年8月1日に開始しました。そして10月現在まで、資金調達がプランAを遂行出来る分に達する見込みが得られないため、プランBをターゲットとして準備を進めています。これまでの経過は以下の通りです。

・土地の賃借契約

通称「M4」の地主さん（松本さんの奥様）とは口頭で大枠合意済みです。実際の契約書取り交わしは12月を予定しています。土地の賃借は先の7月より発生しているという前提です。

・建築確認申請

10/1、建築設計図面、ウォール設計図面、参考資料（完成イメージのアシンメトリックパース、サンプル写真（※））を建築確認申請を代行していただき、NGOるしな、サン・アリー氏（るしな代表松本氏の奥様）へお渡ししました。

※カンボジアで初めてになるウォールですので関係者の理解を得やすくするために表記の参考資料を用意しました

・基礎工事の現説（現場説明）

基礎工事だけがプランAに対応しています。これは現地業者とNGOハートオブゴールド建設チームに見積もりをお願いしました。現説はNGOるしな代表・松本氏氏立会いのもとで行いました。現時点では、前者からの見積もりが出ています。

・資材調達調査

プランBに対応する足場用資材はアンコール遺跡の修復工事にも多く使われていましたので、ほとんどが入手可能なことが分かりました。然るべき業者から見積もりとさらに他の業者からの合い見積もりも取れました。

・プランBの完成に必要な最低限の必要経費は以下の通りです

名称	単価	数	計	備考
基礎工事費			US\$3070	
ウォール足場資材費			US\$5800	
ウォール資材費			US\$792	
ルート資材費			(未定)	日本からの持ち込み
土地賃借代			US\$2400	09/7～12ヶ月分先払い
スタッフ宿舍賃借代	US\$400	5	US\$2000	09/12～5ヶ月分
同、光熱費、水道代など	US\$100	5	US\$500	同上
同、食費	US\$300	5	US\$1500	同上
交通費、その他	US\$50	5	US\$250	同上
施工者渡航費用	¥100,000	3	¥300,000	保険等含む
施工技術者労務費			(未定)	
合計 (US\$)			US\$16,312	
合計 (¥)			¥300,000	

この表から、概ね、**¥2,000,000**程度が初期投入（プランB実現までの）のミニマムな経費となります。

・寄付、寄贈について

2009/9/30 現在、寄付金総額は、**¥1,071,500**です。

これまでに以下の方々からご寄付いただきました。ありがとうございます。

中江恵美子様、(株)モンベル様、清水逸郎様、榎田猛彦様、木村まり子様、塚内尚子様、カリン様、安田至宏様、吉富明様、大岩あき子様、高木智子様、堀田圭子様、(以上、順不同)

これまでに以下の方々から、クライミングギヤ、開拓ギヤ、その他備品等を寄贈いただきました。ありがとうございます。

菊地敏之様、伊藤文博様、塚内尚子様、中島審也様、棚沢健治様、安田至宏様、北山真様、丸山明子様、栗原俊雄様、森山議雄様、多川敦様、有泉重正様 (以上、順不同)

下記の方から、中古ホールドを格安で譲っていただきました。ありがとうございます。(順不同)

クライミングジム・パンプ様、クライミングジム・ビッグロック様



引き続きみなさまの暖かいご支援をお願い致します。

・プランBの実現に向けて

・現状対応

通称プランBは、コンペなどで使われている屋外設置自立型のウォールを指します。ビル建設の足場と同様の構造体を組み、それにコンパネ（※）を貼り付けて登攀用の壁を構築します。屋外置なので費用が当初のプラン（プランA）より相当軽減します。プランBの完成は、2010年2月を見込んでいます。プランAに比べると壁の規模は小さくなりますが、子供たちのトレーニングには十分な高さ（約8m）と幅（約6m）を持ちます。悩みは雨季。パネルを解体するか、天辺に防水布を張るかなどの対策を検討中です。

※コンパネ：Composite Panel（合板木材パネル）

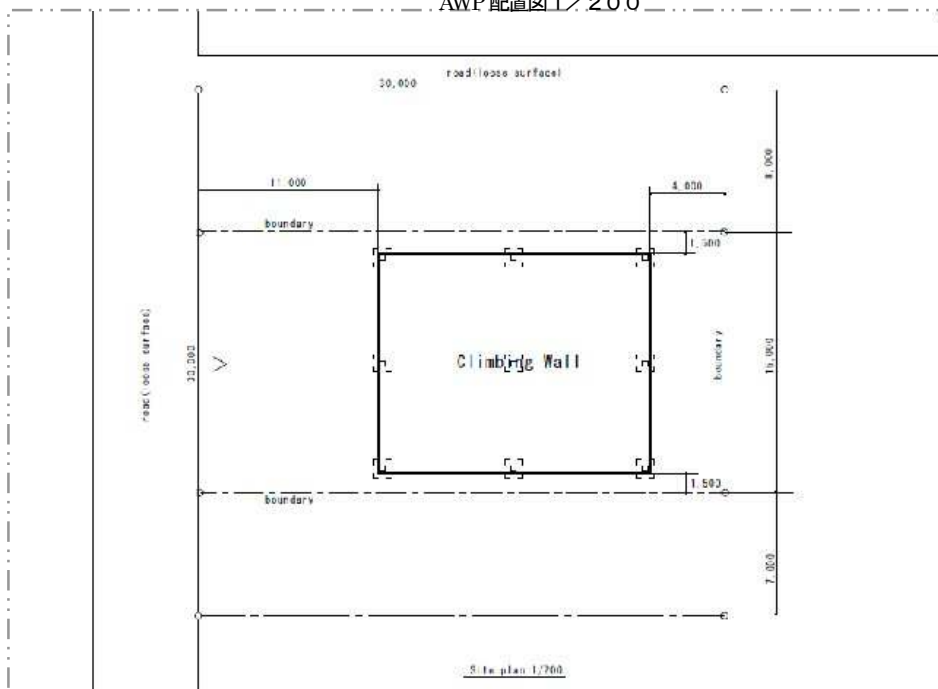
・プランB以降

資金の調達状況により、柱、屋根、壁と順番に困って行きます。建物が出来た段階でさらに資金が集まれば、プランBを解体、プランAのウォールを作る、そんな計画です。

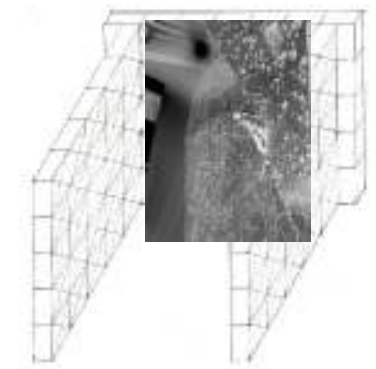
・プランB完成に向けてのお願い

ウォール施工は、2010年1月中旬着工予定です。工事には、ウォール施工に関心のあるカンボジアの方にも自由に参加していただく計画です。また、ルート設定には広くボランティアを募ります。日本の専門技術者が指導にあたり、誰でも参加できるプロジェクトにしたいと考えています。ボランティアをご希望する方は、どうぞお気軽にご連絡ください。

AWP 配置図 1/2.0.0



ウォール構造体のアシンメトリックパース



クライミングウォール設計施工(有)アート・モリ代表取締役・森山謙雄のプロフィール

1949年長野県上田生まれ。クライミング・ジム/アート・ウォールのオーナー。長野県山岳協会・副会長。長野県山岳総合センター・運営委員。国内の岩場をオールラウンドに登る。1989年国内初の人工壁によるコンペを開催。以後11回に渡ってリバーズカップを主催。1991年人工壁による国内初の国体山岳競技（北信越大会）を開催。現在も人知れず静かな地を求めてルート開拓に燃えている。ACN特別技術顧問。



ACNの様々な活動

■クマエキッズクライミング教室 ※クマエ=クメール人(カンボジア人)
9/12、10/3にカンボジア北西部シソポン(バンテアイミンチェイ州)にて、NCCC(新チャイルドケアセンター)の孤児たちを中心としたクライミング教室を実施しました。春に2度行いましたので今回で通算4回になります。スポーツクライミングを子供たちに教える試みはカンボジアでは初めてのことだと思います。NCCCは身寄りのない孤児を預かって職業を身に付けさせ、社会へ羽ばたくまでサポートする施設です。講習には保護者の同伴を義務付けていますが孤児たちの親は、じつはNGOの代表の松本さんです。講習のあと、子供たちにクライミングってどう?って聞くと、誰もが「ハッピー」って答えました。そして、次はいつ?って待ち遠しそうに聞き返してきます。



■クライミングインストラクター育成プログラム

インストラクタートレーニングを開始しています。現時点での講習生は、理事・スムロン氏(Sem Sarorn)。氏は中学校教師ですが幸い9月は日本の夏休み(お盆休み)に相当、ほぼ1ヶ月、伊藤と行動を共にしました。講習地は、プノンクーレン/チェ岩、プノンクロム/プチレッドクリフ、シソポン/神々の寝床、そしてタイ/クラビ。子供たちのクライミング教室では、すでに「先生」として定着しつつあります。講習テキストには、主に「最新クライミング技術」菊地敏之著、「登山技術全書・フリークライミング」北山真著を使用しています。

■クラッグ(岩場)開拓

これまで私たちは、主に次のカンボジアの岩場にクライミングルートを開拓してきました。シェムリアップ北部プノンクーレン(粗粒砂岩)、カンボジア南部カンポット



至近のコンポントラッチ(石灰岩)、そしてカンボジア北西部シソポン(石灰岩)。この10月も、子供たちの講習用に、シソポンの小さな壁にルートを数本設定しました。グレードは5.7~5.10a。この壁の横に小さな土着神が祭られています。下地がタイルで気持ちがいいのか、開拓時、子供がすやすやと寝ていました。それでこのエリアを「神々の寝床エリア」としました。



■ACNグッズ作成販売

ACN創立1周年を記念したACNクロマーを販売しました。売り上げはすべてACNの運営資金に充てられています。初回製作分は、すでにすべてこちらの手を離れています。購入された方、また、販売を引き受けていただいた方にお礼申し上げます。なお、ACNクロマーは、デザインや価格などさらに検討を重ねて近々リニューアルされます。同様に、直販も予定していますので、購入をご希望の方は、早めにご連絡ください。また、お店等においていただける方がおりましたら、是非ご紹介ください。今後、トートバッグ、チョークバッグ、ロープバッグなども計画されています。よろしく願います。ACNグッズはプロルン・クマエ(カンボジアの伝統的な手織布の継承と発展を担う民間機関)とのコラボ品です。

ACNクロマーはACNとプロルン・クマエのコラボ



トポ

2007年春までカンボジアで農村開発のNGOアクティビストだったベンジャミン・ティプトン（アメリカ人、ワシントンDC在住）が、トポを出版しています。ただし、販売はカンボジア国内に限られています。彼らの開拓した岩場の中から比較的ポピュラーなルートと、私たちの開拓した岩場のルートを書いたACN（オリジナル）トポを、12月からシェムリアップ連絡所に常備する予定です。どなたでも閲覧できます。ACNトポが現在カバーする岩場は、プノンペン至近のプノンチエリア、カンボジア南部カンポット、シェムリアップ至近のプノンクーレン、同じくシソポンです。



ACNが紹介されている雑誌

岳人2008年1月号(NO.727)、山と溪谷2008年11月号、ロックアンドスノー44号及び45号、登山時報2009年2月号(NO.408)、OUTWARD（モンベルクラブ会員誌）2009年9月号(NO.45)、山と溪谷2009年10月号、岳人2009年11月号(NO.749)、登山時報2009年11月号(NO.417)、フリーファン（日本フリークライミング協会誌）2009年秋号(#060)

上級登攀ガイド・菊地敏之のプロフィール

1960年横浜生まれ。山岳ガイド（社団法人日本山岳ガイド協会上級登攀ガイド）。谷川岳一ノ倉沢烏帽子奥壁大氷柱初登攀。ヨセミテ、その他世界各地での高難度クライミング多数。カラコルムヒマラヤ・トランゴタワー登攀。元クライミング・ジャーナル編集長、元オベル冒険大賞事務局。クライミング関係の著書多数。現在、労山『登山時報』に「山で気になるカンキョーの話」を連載中。ACN特別技術顧問。



contents

- 01 ダイジェスト
 - ACN寄付金口座情報
 - ACN連絡先情報
- 03 アンコールクライマーズネットについて
- 04 カンボジアでクライミングウォールを作る
- 05 クライミングウォールの基本計画
- 07 クライミングウォール施工準備、
10月現在の状況
- 08 プランBの完成に向けて
- 09 ACNの様々な活動
 - キッズクライミング教室
 - クライミングインストラクター育成プログラム
 - 岩場の開拓、その他

※写真、地図、イラストはすべてACNオリジナルコンテンツです

editor's note

・カンボジア/シェムリアップ郵便局にACN専用のPOBOXが出来ました。93044です。着々と現地拠点体制が固まりつつあります。詳細は2ページの「ACN連絡所」をごらんください。

・今年、ACNのカンボジア人メンバー（在カンボジア）も日本勤労者山岳連盟の会員資格を認められ、山岳保険への加入が可能になりました。次号では、ACN設立当初からの最大の課題の一つ、カンボジア人クライマーの事故対応について、ACNの理念、具体策をお知らせします。（Chu）

©禁無断転載

アンコールクライマーズネットニュースレター

2009年10月号 NO.1 2009年10月30日発行

非売品

発行人 伊藤忠男

編集人 伊藤忠男

発行 アンコールクライマーズネット (Angkor Climbers Net)

〒182-0025 東京都調布市多摩川5-3-1-506

tel 042-498-2488 fax 042-498-2488

http://www.angkorclimbers.net